

4月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和6年4月末現在〕

令和6年5月14日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」、「売上高」、「収益状況」全て改善した。

業種別でみると、「景況」は、製造業、非製造業ともに改善した。「売上高」は、製造業、非製造業ともに改善した。「収益状況」は、製造業、非製造業ともに改善した。

エネルギーや原材料等の価格高騰及び人件費の上昇が続いており、コスト上昇分を十分に価格転嫁出来ていない報告や人手不足に係る報告もあった。

景況DI

製造業は、前月比10.8ポイント改善の▲20.0ポイント、非製造業は、前月比14.8ポイント改善の▲20.0ポイント、全体では、前月比12.7ポイント改善の▲20.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比10.9ポイント改善の▲16.0ポイント、非製造業は、前月比24.3ポイント改善の20.0ポイント、全体では、前月比18.3ポイント改善の▲2.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比変化2.8ポイント改善の▲28.0ポイント、非製造業は、前月比1.4ポイント改善の▲16.0ポイント、全体では、前月比変化2.5ポイント改善の▲22.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	学校給食パン	新年度を迎えたが、児童生徒数の減少が顕著である。特に県北地域の減少が著しく、80人以上の減少になる自治体もある。
	学校給食米飯	学校給食の対象となる児童生徒数の減少傾向が続くなか、加工賃の上昇分を考慮しても、売上高は減少している。 機械設備の修繕費及び従業員の賃金増額により、益々経営が厳しくなっている。 以前ほどではないが、コロナ感染、インフルエンザなど学級閉鎖等もあるため売上減少が続いている。 納品先である市町村から納品時間や配送ルートを一方向的に決められてしまい、効率の良い配送ルートで配送できないという事態や、決められた納品時間に納品するため、余分にトラックを手配する必要があるが生じている。
	味噌	令和5年度に脱退者があり、新規組合員を増やさないと、組合維持が難しくなってくる。
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県3月の清酒課税移出数量は、対前年同月比86.7%であった。本格焼酎についても、同86.1%であった。2月は1年振りに対前年同月比を上回ったが、3月は再びマイナスに転じた。物価高、賃金アップの格差、地域人口の減少等多様な要因が重なり、個人消費動向も一定でなく、酒についても影響を受けていると考える。 ○県内当業界について JRグループと地域の行政や観光業者が一体になって行う国内最大級の観光キャンペーンであるDCが昨年10月～12月に開催された。 地酒による観光客誘致も企画として、「地酒列車」が数本運行され、どの列車も満席であった。列車の中で飲酒して下車後観光される客も多く、改めて観光と飲食は切り離せないファクターであると感じた。 しかし、観光地の一部飲食店に置いてある酒が全種類他県産であったとの話も聞こえてきており、地元での地酒の浸透がまだまだであると痛感させられた。
	納豆	人手不足による工場稼働率が低下しているほか、原材料費、人件費上昇などによるコストの上昇を販売価格に転嫁できていない。
	菓子	前年度よりは人流の回復が見られ、売上高はやや上昇している。 しかし、原材料費高に商品の値上げが追いつかず利益率の低下が見られる。 5月に開催の「いばらきスイーツフェア2024」等を通して、和菓子業界の需要を高めていきたい。
	漬物	令和6年度組合員数は前年度の22名から20名に減少。原料生産を行う組合員も減少している。
繊維工業	県北地区外衣シャツ	組合員企業の従業員の高齢化が進んでいる。一方、若年層の新規採用が難しい状況にある。
木材・木材製品	製材	国産材製品は荷動きが悪く、製品価格も杉、桧ともに値を下げた。 外材も荷動きが悪く、価格は保合で推移した。 原木は荷動きが良く、価格も保合で推移した。
	県北地区プレカット	月間加工数は目標の60%達成。5月の加工予定は中旬～下旬に集中している。木材価格は、やや安値で推移している。
	県央地区プレカット	見積件数は微増の傾向にあるが、加工確定までにはまだまだ時間を要するので、生産状況は非常に厳しい状況が続いている。 大型物件も動いてはいるが、工事予定のずれ込みで加工も先延ばしとなっている。
紙・紙加工品	段ボール	生産量が昨年より数%ダウンしており需要減少が続いている。観光インバウンド客の増加により、民芸品等の包装材及び梱包に使われる段ボールの需要が増加しているが、製造業、食品関連などは依然悪い状態が続いており今年1年はこの状況が続くことが危惧される。 パルプ、石炭、コンスターチなど原材料を輸入に頼っているため、今後、さらに円安が進行すると原材料費が高騰し、収益に影響がでてくることが考えられる。
印刷	総合印刷	ウェブ、電子データ化の増加によって紙への印刷需要の減少が顕著、加えて印刷資材の値上がりなどコスト上昇分を販売価格にフルに転嫁できない印刷業界の「弱い立場」が恒常的に続き、収益、資金繰りを圧迫している。
窯業・土石製品	陶磁器	陶炎祭に向け商品の生産量が増加し、大幅な売上増となっている。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製造業	鉄鋼・金属	鉄鋼	業界全体の売上高・設備の稼働度とも1割程度減少している。建設・住宅関連部品、機械部品等の加工受注量についても前年より減少傾向である。 金属材料はすべての金属が値上がりしており、貴金属等も高値で推移している。 電気代・燃料・灯油等についても高値で推移し、めっき用薬品や塩酸などの酸類も値上がりしている。 材料費の値上がりでコストが上昇し、収益状況は悪化してきている。
	一般機器	生産用機械	対象7組合員（製造会社）の売上状況は、前年同月比で2社増加、5社減少の全体増減率86%であった。 団地全体の売上高は、主要取引先からの受注が引き続き減少したことを主要因として、前年同月比で減収となったが、前月比ではほぼ同額の売上高となった。また、団地全体の従業員数は、新卒社員が入ったため正社員数は増加したが、派遣社員数が減少したため、前年同月比で減少となった。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	総じて生産高は増加傾向にあるが、企業間の格差が広がっている。
非製造業	卸売業	生鮮魚介	取扱高は前年同月比111.31% 全ての商品単価が上昇したため、売上高は前年を上回った。 また、人の流れがコロナ禍前の水準に戻ってきており、月末の連休前など取り扱い数量が多少伸びてきている。
		米麦	主食用米は、インバウンド需要や外食・中食向けの需要が伸びたことで不足気味となり、米価が急激に高騰し、その上昇分を販売価格に転嫁できず、収益は厳しい状況が続いている。
		袋セメント	袋セメントの4月出荷数量は、28千袋、前年同月比88.9%の実績。 年度末締切の工事が概ね終了したこと、および当組合で扱うメーカー品袋セメント(ブランド品)の値上げ後、競合する量販店袋セメントの価格が引き続き低価格で推移していること等の要因により、前年同月比11%程度の減少となった。
	小売業	県北地区共同店舗	春休み期間が好調だったため、売上高は前年同月比109.3%、客数は同111.8%であったが、前年同月の売上高を確保できた店舗は58%であった。
		鹿行地区共同店舗	売上高は店舗によってかなりばらつきがある為総合すると減少しているが、半数以上の店舗は昨年度より増加している。 100円ショップが売り場面積を拡大し、昨年11月リニューアルオープンした。 物価上昇に伴い販売価格も改定している。 コロナ融資の措置期間が終わり返済が始まったが、景気はまだ回復途中で厳しい状況である。
		家電	4月の売上高は前年同月比で微増。要因は気温上昇に伴うエアコン等、需要の高まりと思われる。 その他、好調商品は冷蔵庫、洗濯機、エコキュート等。
		燃料	国の燃料油価格激変緩和策により燃料油価格は抑えられているものの、レギュラーガソリンの平均価格は170円を超えており、前年同月に比べ約8円/ℓ高くなっている。 歴史的な円安と世界情勢の悪化により原油価格は下がる様子が無く、燃料油価格激変緩和策の継続が無くなった場合、レギュラーガソリンで200円/ℓを超え、消費者、小売事業者共に混乱を招く要因となることから、補助金延長を望んでいるが、何時まで続くかは不明であり、注視して行く必要がある。 低燃費車の増加や少子高齢化の影響で車に乗る世代の人口が少なくなっていることで、燃料油販売量は減少し続けており、収益は減少する一方で物価上昇対策、賃金アップにも努めなくてはならず、益々厳しい状況が続いている。
二輪自動車	コロナ禍の期間、二輪車は密を避ける乗り物として重宝されたが、半導体不足により新車は供給不足となり、中古車が新車より高値になったことで販売は好調であった。現在は新車が供給過剰となり、先月の防犯登録数は茨城県では昨対2割減の状態である。		
スポーツ	年々、日立製作所の従業員減少及び市内の中高生が減少していることにより、日立市内における売上は減少傾向である。 売上確保・向上のため、市外（特に東海、ひたちなか、水戸）に販路を拡大している。		
中古自動車	販売価格は前年同月比13.8%増と上昇したが、販売台数は同21.1%減と大幅に減少したため、売上高は10.2%減少する厳しい結果となった。 一部の新車メーカーによる供給停止や生産ペースの鈍化で、中古車の流通量が減少傾向にあり、流通市場の中古車不足で相場が高騰していることから、小売価格も上昇傾向にある。また、県内の小売市場は動きが鈍く冷え込んだ状況が続いており、各店で販売台数が落ち込んでいる。		

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）	
非製造業	野菜・果実	野菜果物合計の取扱高が前年同月比107.7%。 野菜に関しては、3月の気温低下の影響により人参や玉ねぎ等を中心に多くの品目で単価高となった。 茨城県産のメロンも出回り始めたが、例年に比べ小玉傾向。単価はやや高値で推移している。	
	商店街	ひたちなか	国営ひたち海浜公園のネモフィラ鑑賞の来街者により市内への来街者は増えているが、商店街への客足は増えていない。
		水戸	引き続き人手不足が続いている。
		筑西	コロナ禍後、初の歓送迎会の時期を迎え、昨年よりは売上増加をしているが、コロナ禍以前の水準には戻っていない。
非製造業	サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両在庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の対前年同月比は、普通車（99.6%）・軽自動車（102.8%）ともにほぼ前年度並みとなったが、消耗品等の高騰により、収益面での悪化が顕著となってきた。
		旅館、ホテル	4月は、春休み後半とGW入口の期間に入り客入りが好調の様子を見せている。その要因の一つとして、国営ひたち海浜公園のネモフィラツアーやスポーツ大会等への団体客の増加が考えられる。集客地域については、県内及び関東の地域が多くを占め、海外からは台湾や香港、シンガポール等の東南アジアからインバウンドが堅調であり、特に台湾及びシンガポールからの観光客が目立った。 一方、施設によっては、コロナ規制解除後約1年経過するも、長期宿泊者やオンライン会議等の利用により出張者が減っている状況も見られる。 更に、諸物価及び人件費の高騰（特に人員確保及びベースアップ）などの固定費が嵩むなど収益が圧迫される状況にある。
	建設業	鹿行地区建設	建設業界では2024年4月より時間外労働の上限規制が適用され、時間外労働の削減に取り組む必要があり、週休二日制工事の推進やデジタル化を活用した効率化が求められている。
	運輸業	軽貨物自動車	令和6年4月の組合員数は100名。車両台数は129台で前月と比較して組合員が2名減少、車両は2台減少である。 また、運送売上高については前年同月比90%であった。
		一般貨物自動車	新年度になっても主要顧客の発送物量は低調だが、4月から更に輸送運賃は値上げとなった。しかし、ドライバーの総労働時間削減の為、車両の稼働効率が低下した。特に長距離について、効率が低下し、収益は厳しい状況にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食の回数増
	学校給食米飯	市町村の給食調理業務は年間契約で民間委託で実施されている箇所が増加している中、炊飯業務も同様の形態にての契約を望む。 ガソリン代の燃料油価格激変緩和対策事業の継続無しでは学校への配送が困難になると思われることから、今後も継続を願いたい。
小売業	鹿行地区共同店舗	集客イベントや宣伝活動（チラシ・SNS）等、他のショッピングセンターがやっていることでも専門家のセミナーでもいいため情報をいただきたい。
	燃料	・揮発油に課税している二重課税の廃止 ・燃料油価格激変緩和策の継続と出口戦略の明確化 ・物価上昇、円高への対策
建設業	鹿行地区建設	公共工事の発注件数の増加

月次景況調査 4月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	4月	3月	前月比	4月	3月	前月比	4月	3月	前月比
景 況	▲ 20.0	▲ 32.7	12.7	▲ 20.0	▲ 30.8	10.8	▲ 20.0	▲ 34.8	14.8
売 上 高	2.0	▲ 16.3	18.3	▲ 16.0	▲ 26.9	10.9	20.0	▲ 4.3	24.3
収 益 状 況	▲ 22.0	▲ 24.5	2.5	▲ 28.0	▲ 30.8	2.8	▲ 16.0	▲ 17.4	1.4
販 売 価 格	40.0	24.5	15.5	16.0	3.8	12.2	64.0	47.8	16.2
取 引 条 件	▲ 10.0	▲ 14.3	4.3	▲ 8.0	▲ 11.5	3.5	▲ 12.0	▲ 17.4	5.4

中小企業月次景況調査(令和6年3月)DI値(前年同月比)

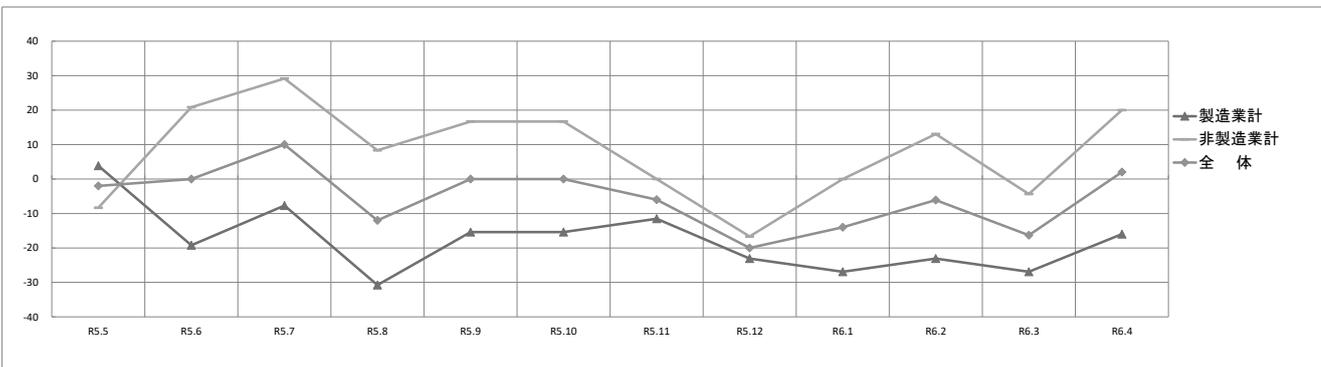
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況															
	DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)																		
		増加	不変	減少		業界数	増加	不変		減少	業界数	上昇		不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化		業界数	好転	不変		悪化	業界数	上昇		不変	悪化	業界数	増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数								
製造業	食料品	△ 42.9	1	2	4	7	14.3	1	6	0	7	57.1	4	3	0	7	△ 14.3	0	6	1	7	△ 28.6	0	5	2	7	△ 28.6	0	5	2	7	0.0	2	3	2	7	△ 14.3	0	6	1	7	△ 14.3	1	4	2	7		
	繊維工業	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	木材・木製品	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3		
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1		
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1		
	窯業・土石製品	20.0	1	4	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	40.0	2	3	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	1	3	1	5	20.0	1	4	0	5	0.0	1	3	1	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	1	3	1	5		
	鉄鋼・金属	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1		
	一般機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1		
	電気機器	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1		
	輸送機器	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3		
製造業計	△ 16.0	4	13	8	25	△ 8.0	2	19	4	25	16.0	6	17	2	25	△ 8.0	1	21	3	25	△ 28.0	1	16	8	25	△ 12.0	1	20	4	25	△ 12.0	4	14	7	25	△ 20.0	1	18	6	25	△ 20.0	2	16	7	25			
非製造業	卸売業	100.0	3	0	0	3	0.0	0	3	0	3	100.0	3	0	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	33.3	1	2	0	3	X	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3						
	小売業 (商店街含む)	15.4	6	3	4	13	0.0	2	9	2	13	61.5	8	5	0	13	△ 23.1	0	10	3	13	△ 23.1	2	6	5	13	△ 15.4	1	9	3	13		△ 7.7	1	10	2	13	△ 30.8	1	7	5	13						
	サービス業	△ 50.0	0	1	1	2	X	50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0		2	0.0	1	0	1	2	0.0	0	2	0	2					
	建設業	20.0	2	2	1	5		60.0	3	2	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	1	3	1	5	20.0	1	4	0	5	0.0	1	4	0		5	0.0	0	5	0	5	0.0	1	3	1	5					
	運輸業	0.0	1	0	1	2		50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0		2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2
	非製造業計	20.0	12	6	7	25		0.0	2	12	2	16	64.0	16	9	0	25	△ 12.0	0	22	3	25	△ 16.0	3	15	7	25	0.0	3	19	3		25	△ 8.0	2	19	4	25	△ 20.0	2	16	7	25					
全体	2.0	16	19	15	50	△ 4.9	4	31	6	41	40.0	22	26	2	50	△ 10.0	1	43	6	50	△ 22.0	4	31	15	50	△ 6.0	4	39	7	50	△ 12.0	4	14	7	25	△ 14.0	3	37	10	50	△ 20.0	4	32	14	50			

D I 値推移表 (R5. 5月 ~ R6. 4月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R5. 5	R5. 6	R5. 7	R5. 8	R5. 9	R5. 10	R5. 11	R5. 12	R6. 1	R6. 2	R6. 3	R6. 4
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	33.3	16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	16.7	▲ 42.9
製造業(食料品製造業以外)	15.0	▲ 5.0	▲ 5.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 5.6
製造業計	3.8	▲ 19.2	▲ 7.7	▲ 30.8	▲ 15.4	▲ 15.4	▲ 11.5	▲ 23.1	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 26.9	▲ 16.0
卸売業	0.0	66.7	66.7	66.7	0.0	33.3	33.3	▲ 66.7	33.3	100.0	66.7	100.0
小売業(商店街含む)	▲ 25.0	8.3	16.7	16.7	33.3	0.0	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 18.2	▲ 18.2	15.4
サービス業	0.0	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	▲ 50.0
建設業	0.0	40.0	20.0	▲ 40.0	40.0	40.0	▲ 20.0	0.0	40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	20.0
運輸業	50.0	0.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	100.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 8.3	20.8	29.2	8.3	16.7	16.7	0.0	▲ 16.7	0.0	13.0	▲ 4.3	20.0
全体	▲ 2.0	0.0	10.0	▲ 12.0	0.0	0.0	▲ 6.0	▲ 20.0	▲ 14.0	▲ 6.1	▲ 16.3	2.0

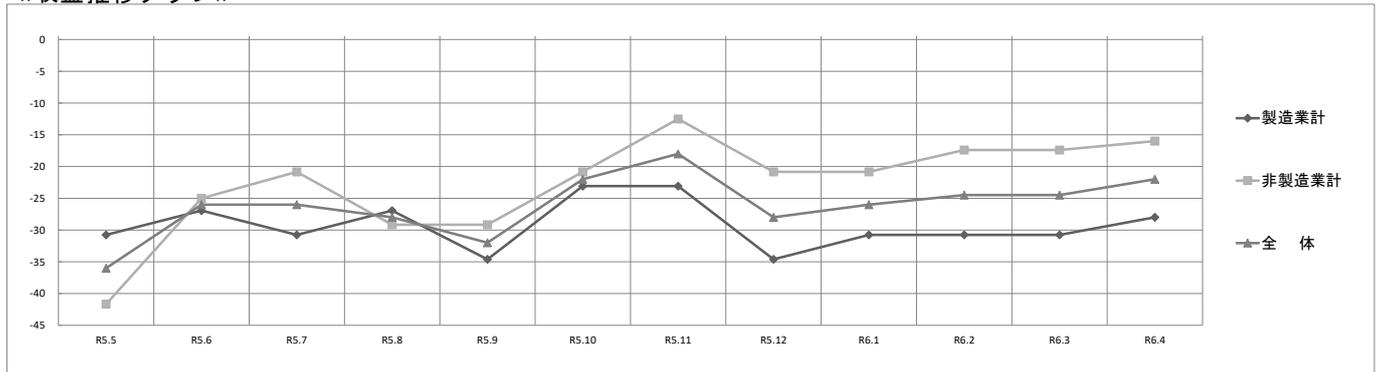
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R5. 5	R5. 6	R5. 7	R5. 8	R5. 9	R5. 10	R5. 11	R5. 12	R6. 1	R6. 2	R6. 3	R6. 4
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	0.0	▲ 16.7	▲ 16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	▲ 28.6
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 55.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 45.0	▲ 27.8
製造業計	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 28.0
卸売業	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 23.1
サービス業	▲ 100.0	0.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 17.4	▲ 17.4	▲ 16.0
全体	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 22.0	▲ 18.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 24.5	▲ 24.5	▲ 22.0

《収益推移グラフ》

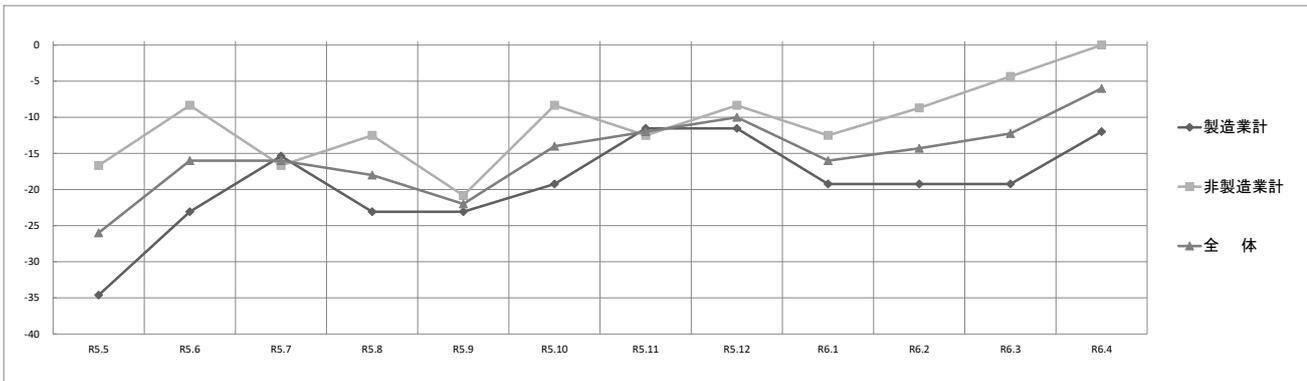


D I 値推移表 (R5. 5月 ~ R6. 4月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R5. 5	R5. 6	R5. 7	R5. 8	R5. 9	R5. 10	R5. 11	R5. 12	R6. 1	R6. 2	R6. 3	R6. 4
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	0.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 28.6
製造業(食料品製造業以外)	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 5.6
製造業計	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 11.5	▲ 11.5	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 12.0
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
小売業(商店街含む)	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 15.4
サービス業	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	▲ 100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 12.5	▲ 8.3	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 4.3	0.0
全体	▲ 26.0	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 18.0	▲ 22.0	▲ 14.0	▲ 12.0	▲ 10.0	▲ 16.0	▲ 14.3	▲ 12.2	▲ 6.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R5. 5	R5. 6	R5. 7	R5. 8	R5. 9	R5. 10	R5. 11	R5. 12	R6. 1	R6. 2	R6. 3	R6. 4
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 66.7	0.0	16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	0.0	▲ 14.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 20.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 35.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 35.0	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 22.2
製造業計	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 20.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 66.7	0.0	0.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 33.3	▲ 25.0	8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 30.8
サービス業	50.0	50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0
建設業	20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	▲ 20.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 12.5	▲ 12.5	4.2	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 21.7	▲ 34.8	▲ 20.0
全体	▲ 18.0	▲ 24.0	▲ 18.0	▲ 30.0	▲ 22.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 22.0	▲ 12.0	▲ 26.5	▲ 32.7	▲ 20.0

《景況推移グラフ》

